

桜行

飄

々

広報委員

渡邊 恵幸

自院の 2 階の窓から見える一の坂川のたもとの桜並木に、いつもと変わらぬように桜が咲き誇っている。今年は例年と異なり満開の時期が少し遅かった。何時もは 3 月下旬から 4 月の初めに最高の美しさを見せてくれたが、今年は 4 月 4～5 日へずれ込んだ。4 月初旬に寒い毎日が続いたせいだろうか。山口市徳佐八幡宮のしだれ桜が 3 月 30 日に何時もより早く咲いたと患者さんから聞き、本当かなと思いつつ 31 日にカメラを片手に出かけた。確かに参道の桜並木は見事な桜に彩られていた。同神宮より少し離れた所にあるしだれ桜も素晴らしい咲き栄えであった。いつもは山口市の桜より徳佐の桜は満開の時期が少し遅れる。これも温度の違いかと思っていた。つまり今年はこの地区に温度差がなかったということだろうか。

4 月 5～6 日に家内の両親が眠る阿蘇に墓参りに出かけた。だいたい、晩秋に行き阿蘇の温泉に入ってくるか、春爛漫の日に一心行の大桜を見て帰る。年輪を感じさせる大木と雄大な阿蘇の大地にしっかりと根を張り見事な花を咲かせる光景は自然の偉大さと敬虔さを感じさせると同時に心の安らぎを与えてくれ、知らず知らずのうちに頭を垂れている。

桜は、以前にも書いたが、日本人の心情にぴたりと合う。満開の状態から、はらはらと散っていくさまはたまらないものである。桜には芽吹きに始まり蕾、開花、満開そして落花の時期が規則正しく認められる。それぞれの時期そのものに美

しさが認められる。

生あるものはすべてに固有の時期が存在する。人間の場合、乳児、幼児、学童期、成人、老人の時期に大別できる。さらに、人生を、青春、朱夏、白秋、玄冬に分類すると、白秋期は 50 歳から 75 歳あたりまでの 25 年間に相当するだろうと作家の五木寛之は著書の中で述べられている。彼はさらに「白秋期は晩年ではない。フィジカルには様々な問題を抱えていたとしても、いまの 50 歳から 75 歳までの時期は、むしろ人生の収穫期ではないかと、私は思う」と書いておられる。人それぞれの人生において喜びの人生であれ後悔の人生であったとしても、静かに振り返ってみる時期だと思う。そして玄冬という終焉の淵に静かに入って行く。私は今、白秋期にある。喜びより後悔が先に立つことが多い。残された時間はそう多くはない。過去にひっぱられるかもしれないが、前向きに前進したいものだ。

少し寄り道をしてしまった。白秋期を自分の肉体面から考えてみたい。50 代は疲労感があったけれど、まだ元気よく仕事に集中できた。55 歳で勤務医を卒業した。その後、開業医として出発し、来院の患者さんの人数に頭を悩ませながら現在に至っている。

60 歳代は肉体的にも精神的にも違和感の時期であった。検査をしても明らかな異常は見られなかったが、どこかが違うのである。この時期も何とか通過した。

70 歳になってからは肉体的な痛みの時期になった。筋肉痛はもちろん、各関節痛の出現であ

る。著明に感じるようになったのは医師会館の 6 階で講演が終わり、日頃の運動不足を解消するために 1 階まで歩いて降りていたある日のことである。例の如く降りていたら膝関節に激痛が起こった。心の中で悲鳴を上げた。ちょうど 4 階あたりだった。手摺にしがみつकिながら 1 階に何とか到達した。それ以来、階段の昇降に痛みを感じるようになったが、痛みを感じる時とそうでない時がある。今は膝関節以外に手、指、肘、両肩並びに顎関節に痛みを感じている。鎮痛剤を服用しながら各関節と仲良く共生していくしか方法はないのだろう。

80 歳はまだ経験していないのでわからないが人生の終幕を下ろす時期になるだろう。肉体的には衰弱期である。それ以前に幕を下ろすかもしれない。どのような幕の下ろし方になるかわからないが、今まで生きてこられたことに深く感謝しながら眼を閉じたいものである。

今年は寒さのぶり返しがあったりで満開状態が長く保たれ、4 月 10 日になり桜が散り始めている。一の坂川にも花筏が見られるようになった。

週末には葉桜が多くなることだろう。そして新緑の輝く美しい季節になる。まさに生命の輝きを表現するかのようだ。

今の私の夢はいろいろな想いをこめて散る、桜吹雪を情感豊かに写真に取り込むことである。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串 2 丁目 3-1 (山口大学医学部横)
TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090
[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。

「いい医療の日」ロゴマーク募集!

日医では、より良い医療のあり方について国民と医師とが共に考えることで、更なる国民医療の向上に寄与していくことを目的として、日医の設立記念日である 11 月 1 日を、「いい医療の日」として制定しています。

このたび、会員に限らず広く一般の方々(プロ・アマ不問)を対象に、この「いい医療の日」のロゴマークを募集することになりました。奮って、ご応募願います。

詳しくは、日医ホームページ (<http://www.med.or.jp/people/008388.html>) をご覧下さい。

応募・
問い合わせ先

日医広報課

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16

☎ 03-3942-6483 (直)



締切

2019.
6/28 (金)